

第1章 復興には、ほど遠い カミュ『ペスト』

15

宮古で／気仙沼で／石巻で

『ペスト』の国／災厄の構図／今できること

第2章 「放射能に、色がついていたらなあ」 カフカ『城』

35

南相馬で／政府がしたこと／何が起きているのか／学校で

特別養護老人ホームで／「指示」と現実のズレ／カフカの『城』

『城』の構図／「安心」が崩れるリスク

第3章 「帝国」はいま 島尾敏雄『出発は遂に訪れず』

69

「戦争文学」は何を伝えたか／第二の敗戦？

戦時下に書かれた『暗黒日記』／「安全神話」の崩壊

「帝国」と同じ体質

第4章 東北とは何か ハーバート・ノーマン『忘れられた思想家—安藤昌益のこと』

105

「東北文化の歴史的 성격」／『忘れられた思想家』
再び、東北の可能性

第5章 原発という無意識 エドガール・モラン『オルレアンのうわさ』

127

やらせメール／核燃料サイクル／「脱原発」四つの立場

『オルレアンのうわさ』／「神話の構造」／「対抗神話」

『「フクシマ」論』／〈原子カムラ〉と「原子カムラ」

「3・11」以前のチェック／「安全神話」と「対抗神話」

第6章 ヒロシマからの問い 井伏鱒二『黒い雨』

161

放射能と差別／『黒い雨』と『重松日記』

『重松日記』の足取り／『黒い雨』の足取り

改編の理由／「黒い雨」報告書／原爆症認定訴訟

近畿訴訟判決／ヒロシマ・ナガサキからフクシマへ

第7章 故郷喪失から、生活の再建へ ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』

檜葉町では／富岡町では／人災と自然災害の複合

故郷と家／大恐慌とグローバル化／「生活再建」を

終章 「救済」を待つのではなく 宮沢賢治『雨ニモマケズ』

227

藤原先生との出会い／宮古では／釜石よ、よみがえれ

両石の仮設住宅で／尾崎白浜の漁師たち／大船渡から気仙沼へ
警戒区域で